

第22回 ハクチョウ

カコちゃん
ショウくん かほくがたナルドレン



ヒント：木枯らしの吹く頃 「そろそろやってくるかな」「この間飛んでいくのをみたよ」という話を耳にします。やがて、「あそこの田んぼに降りていたよ」「私も見たよ」というようなニュースが飛び込んできます。農道に普段とは違う車が止まって、なにかを見えています。それはなんでしょう。

答え：毎年、河北潟にやって来る冬の使者、みんなの人気者「コハクチョウ」です。

こういう風には書くと、なにかアイドルのようなものを連想します。確かに河北潟のコハクチョウはみんなのアイドルです。河北潟のハクチョウを取り上げているブログもいくつもあります。一方、追いかけられるアイドルの立場になるとなかなかたいへんです。いつも誰かに見られていて、ご飯中でも近くに寄って来られます。時々パパラッチのようなカメラマンにも追いかけられます。優雅な姿をしているようで、他の野生動物と同じく、いつもびくびくしています。できるだけ飛びたくないので、少しずつ歩いて離れていきますが、ついに我慢できなくなって、やむなく一齐に飛び立ちます。なにしろ鳥としてはかなりの巨躯です。飛び立つのにも相当なエネルギーを使います。とうわけで、ハクチョウはできるだけ遠くから眺めて下さい。首を一齐に持ち上げたら、警戒しているサインです。少し下がって観察しましょう。

さて前置きがたいへん長くなってしまいましたが、河北潟にはこのように毎年ハクチョウが飛来します。その

ほとんどはコハクチョウです。日本に来るハクチョウの大部分はオオハクチョウまたはコハクチョウで、越冬のために渡ってきます。この2種は、くちばしの黄色い部分の違いで見分けることができます。全国のガン・カモ類の飛来調査の結果によると、北陸や山陰にはコハクチョウが多く飛来するようです。河北潟にオオハクチョウが飛来することはめったにありません。

大型の鳥類であるハクチョウが飛び立つには滑走が必要で、羽ばたいて円を描くように巡回しながら、だんだんと上昇します。降りるときにも、ゆっくりと高度を下げて降りてきます。そのようなハクチョウは電線があるところが苦手です。また、ハクチョウは警戒心が強いので、餌付けされている場合を除き、集落付近や人や犬の徘徊する場所にはやってきません。そこで、まわりに電線がなく安心できる広い田んぼがある河北潟とその周辺が、ハクチョウたちの越冬場所として選ばれるのです。（文 高橋 久）